

志免町議第135号
令和8年7月13日

志免町長 世 利 良 末 殿

志免町議会議長 丸 山 卓 嗣

シーメイト調査研究

特別委員会委員長 稲 永 義 美



シーメイトの在り方に関する提言書

1. 提 言

- (1) 施設の老朽化、館内動線の改善と案内板等の設備の改善
- (2) 子育て支援及び障がい児支援スペース不足の改善と健康づくり及びフレイル予防の対策スペースの設置
- (3) 町民の憩いの場となる交流スペース不足の改善と飲食・物品販売（ふるさと納税品等）サービスの新設について協議・検討
- (4) シーメイトの湯の管理方法や事業継続について
 - ・財政面や近隣自治体の状況や動向などを踏まえた協議・検討
- (5) シーメイト周辺整備の改善の協議・検討
 - ・グラウンド並びに多目的広場の利用拡大と利便性の改善
 - ・防災拠点としての機能不足の改善
 - ・シーメイトへの交通アクセスの改善
- (6) 施設を管理する所管課の見直しと民間事業者活用の検討
 - ・スポーツ、文化、歴史を含めた広域的かつ複合的な機能を有するエリアへ

2. 経緯

シーメイトについては、令和5年9月の決算特別委員会、同年12月の予算常任委員会、さらには厚生建設常任委員会など、様々な委員会において課題が指摘されてきた。

こうした状況を踏まえ、シーメイト本館のみならず、周辺施設や他の公共施設等も含めた幅広い視点から、シーメイトの在り方そのものを調査・研究する必要があるとの判断に至り、令和5年12月議会最終日に「シーメイト調査研究特別委員会」を設置した。

当委員会では、現状把握として、所管の福祉課から「シーメイト設置の目的・事業」、「館内事業所の状況」、「事業所から見る現状」、「公共施設個別計画における改修スケジュール」について説明を受けた。また、町民ニーズを把握するための『アンケート調査』や、『類似施設の視察調査』を実施し、調査研究に取り組んできた。

その結果、屋内外施設管理等の運営面、建物の機能面、行事等の事業面など、様々な観点からも、シーメイトの大規模改修を実施する際には、慎重かつ確実に検討を進めていく必要があるとの判断に至った。

3. 委員会としてのまとめ

建築から20年を経過したシーメイトについて、多様化する社会情勢や町民ニーズの変化を踏まえ、改めて「志免町総合福祉施設」として、町民全体の福祉向上にどのように応えていくべきかを再検討・再確認する時期に来ていると考える。

シーメイト周辺には竪坑櫓やボタ山といった志免町を象徴する歴史資源に加え、多目的広場やシーメイトグラウンドなどの施設も隣接しており、スポーツ・文化・歴史を含めた広域的かつ複合的な機能を有するエリアとしての大きな可能性を持っている。

現在は福祉課が所管しているが、施設の持つ役割や将来的な方向性を踏まえれば、所管体制や担当課の在り方についても含め、横断的な視点から検討を行う必要がある。

加えて、将来的な持続可能性の観点からも、公共性を維持しながら費用対効果を高める視点が重要であり、指定管理者制度の導入を含めた民間活力の活用や収益性の確保についても、真剣に協議・検討すべきである。

単なる維持管理にとどまらず、「町のランドマーク」として町民に親しまれ、交流人口の創出や地域活性化にも寄与する、経済的にも持続可能な施設運営へと発展させていくことを、委員会として提言する。